

学会員（教員）研究動向 [2013. 4～2014. 3]

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
赤井 正二	論文(単著)	「木下柰太郎の小林清親論, あるいは思想としての『都会趣味』」(『立命館産業社会論集』49巻1号) 1-21頁	2013. 6
秋葉 武	論文(単著)	「過疎地における地域活性化— NPO 法人砂浜美術館 (高知県黒潮町) を事例として—」(『協同組合研究誌にじ』644号, 日本共同組合学会) 90-97頁	2013.12
	研究発表等 (単独)	「日本の CSR 史」(立命館大学コリア研究センター・ハンギョレ経済研究所合同研究会, 於: 立命館大学)	2013. 7
	研究発表等 (単独)	「過疎地における地域活性化— NPO 法人砂浜美術館 (高知県黒潮町) を事例として—」(JC 総研第26回公開研究会, 於: 明治大学)	2013. 8
	研究発表等 (単独)	“Public Procurement in Japan” (The 4th Asia Future Forum /Era of Inclusive Growth: Innovation of Enterprise and Society : at Lotte Hotel Seoul)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「営利セクターと非営利セクターの協働」(世界社会的経済フォーラム2013 分科会: ソウル市主催, 於: ソウル市役所ホール)	2013.11
	研究発表等 (単独)	「韓国の市民社会—社会的企業から社会的経済へ—」(日本 NPO 学会第16 回年次大会, 於: 近畿大学)	2014. 3
荒木 穂積	論文(単著)	「発達障害児の対人援助をめぐる一用語の意味と概念を問い直す—」(望月昭・村本邦子ほか編著, 『対人援助学の到達点』, 晃洋書房) 82-93頁	2013. 7
	論文(共著)	「スペイン・カタルーニャ自治州における障害児教育・福祉に関する調査研究」(黒田学・バユス・ユイスほか, 『立命館産業社会論集』49巻2号) 23-44頁	2013. 9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発 (4)～(6)」(竹内謙彰・藤戸麻美ほか, 日本発達心理学会第25回大会, 於: 京都大学)	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「新しい発達診断法開発の試み」(竹内謙彰・中村隆一ほか, 日本発達心理学会第25回大会, 於: 京都大学)	2014. 3
有賀 郁敏	論文(単著)	「ドイツ社会国家における余暇・スポーツ—20世紀ドイツ史の一段面—」(真田久他編『体育・スポーツ史にみる戦前と戦後』, 道和書院) 169-195頁	2013. 6
	翻訳(単訳)	ミヒャエル・クリューガー著「ドイツ社会民主党 (SPD) 150年—社会主義的労働者文化と民衆スポーツ相互間の労働者トゥルネン・スポーツ運動—」(『立命館産業社会論集』49巻3号) 165-176頁	2013.12
栗谷 佳司	研究ノート (共著)	「震災復興における表現文化とメディア—東日本大震災後の復興支援に関する福島県のコミュニティ FM における音楽の契機とミュージカル「葉っぱのフレディー」上演の事例について」(遠藤保子・平石貴士, 『立命館産業社会論集』49巻4号) 101-118頁	2014. 3
飯田 豊	著書(分担執筆)	『よくわかる都市社会学』(中筋直哉・五十嵐泰正編, ミネルヴァ書房) 152-155頁	2013. 4
	著書(編著)	『メディア技術史—デジタル社会の系譜と行方』(北樹出版) 2-3 頁, 84-97頁, 153-155頁, 156-162頁	2013.10
	論文(単著)	「일본의 ‘초기 텔레비전’ 계보 (日本における「初期テレビジョン」の系譜)」(『한국사회학연구 (韓国社会学研究)』5号, 中央社会学研究所) 63-80頁	2014. 1

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
飯田 豊	論文(単著)	「趣味のテレビジョン—日本の初期テレビジョンをめぐるアマチュア文化の興亡」(『現代風俗学研究』15号、現代風俗研究会「東京の会」) 71-83頁	2014. 3
	その他(単著)	「旅するラジオ受信機—異質な他者と出会う〈場〉を」(『月刊民放』2月号、日本民間放送連盟) 8-10頁	2014. 2
	研究発表等(単独)	「趣味のテレビジョン—技術思想としてのアマチュアリズム」(現代風俗研究会「東京の会」、於：関東学院大学関内メディアセンター)	2013. 5
	研究発表等(共同)	「遍在するスクリーンを理解する—その方法と可能性」(光岡寿郎・大久保遼ほか、社会情報学会2013年学会大会、於：早稲田大学)	2013. 9
	研究発表等(単独)	“From Banpaku to NICONICO Cho-Kaigi: The Transformation of Media Events in Japan” (Vortrag: Media Culture InterTalk: The New Paradigm in Media Action in Japan : Universität Leipzig)	2013. 9
	研究発表等(単独)	「社会教育としてのメディアリテラシー実践の動向」(奈良女子大学附属中等教育学校 2013年度 公開研究会)	2013.11
	そ の 他(パネリスト等)	「ラジオ生態系の遷移」(水越伸・毛利嘉孝ほか、シンポジウム「ラジオのメディア・エコロジー」、於：YCAM 山口情報芸術センター)	2013.11
	そ の 他(パネリスト等)	「ラジオの身体・ラジオの政治」(Knut Auferman・Matthew Fuller ほか、シンポジウム「ラジオのメディア・エコロジー」、於：YCAM 山口情報芸術センター)	2013.11
石倉 康次	著書(共著)	『部落問題解決過程の研究 第3巻』(河野健男ほか、「部落問題の解決過程と社会調査」、部落問題研究所) 17-92頁	2014. 1
	調査報告書(共著)	『沖縄における貧困の連鎖と困窮当事者の生活史—貧困の連鎖を解消する『現代の寺子屋』プロジェクト調査報告書—』	2014. 3
石田 智巳	論文(単著)	「体罰・暴力の再生産の仕組みと体育・スポーツ指導」(『ひろば 京都の教育』174号、京都教育センター) 4-9頁	2013. 5
	論文(単著)	「出原泰明による短距離走(田植えライン)の実践」(『たのしい体育・スポーツ』第271号、学校体育研究同志会) 34-37頁	2013. 5
	論文(単著)	「体育科教育における実証研究—子どもの認識を感想文から実証的に読み取る—」(『体育科教育学研究』29巻2号、日本体育科教育学会) 49-56頁	2013. 9
	論文(単著)	「今望まれる実践研究—分析方法論の構築を目指して」(『たのしい体育・スポーツ』278号、学校体育研究同志会) 46-49頁	2014. 1
	論文(単著)	「中村敏雄の4回制バレーボールの実践」(『たのしい体育・スポーツ』278号、学校体育研究同志会) 66-69頁	2014. 1
	論文(単著)	「体育の行政資料を検討する」(『体育科教育』62巻3号、大修館書店) 32-35頁	2014. 3
市井 吉興	論文(単著)	成長戦略とスポーツ政策：観光立国・スポーツ立国・新自由主義型自由時間政策 (『立命館言語文化研究』, 25巻4号) 63-76頁	2014. 3
	その他(単著)	東京への五輪・パラリンピック招致をどう見るか：世界都市への成長戦略とスポーツ本質論 (自治体問題研究所『住民と自治』) 33-35頁	2013.12
伊藤 隆司	論文(単著)	「絵本の特質と教科書の限界『サラダでげんき』をてがかりとして」(『語り合う文学教育』12号、語り合う文学教育の会) 16-22頁	2014. 3
伊東 寿泰	論文(単著)	「ヨハネ福音書における贖罪信仰：文学的方法による分析」(『聖書学論集』45巻、日本聖書学研究所) 149-184頁	2013. 4

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
伊東 寿泰	研究発表等 (単独)	「新約聖書解釈の手引き：スピーチアクト分析」(NTJ 研究会、於：日本キリスト教会館)	2014. 3
井上 雅彦	論文(単著)	「子どもの読みを広げる教材研究―「ごんぎつね」五場面をもとに―」(『東書 E ネット (TEN)』) http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/guide/	2013. 6
	論文(単著)	「立命館大教職課程のカリキュラム改善に向けて―ある私立大学における「経験されたカリキュラム」からの考察―」(『立命館教職教育研究』第1号) 15-21頁	2014. 3
	論文(単著)	「新人教員養成のための教職大学院のカリキュラムの理論と課題」(『京都教育大学大学院連合教職実践研究科年報』第3号、11-25頁 2014/03	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「教職大学院の今後の拡充に向けたカリキュラム改革への提案―学部新卒院生の学びの進化を促すカリキュラム編成―」(浅井和行ほか、平成25年度日本教育大学協会研究集会、於：札幌全日空ホテル)	2013.10
文 楚雄	著書(共編著)	『よくわかる中国語検定4級―リスニング篇―』(斎藤敏康監修、文楚雄・陳敏編著、郁文堂) 全318頁	2013.10
漆原 良	論文(共著)	“Successful treatment of stiff person syndrome with sequential use of tacrolimus.” (Nakane S, Fujita K, Shibuta Y, Matsui N, Harada M, Urushihara R, Nishida Y, Izumi Y, Kaji R, J Neurol Neurosurg Psychiatry. 84巻10号) pp.1177-1180.	2013. 8
	論文(共著)	“Anxiety affects the amplitudes of red and green color-elicited flash visual evoked potentials in humans.” (Hosono Y, Kitaoka K, Urushihara R, Séi H, Kinouchi Y., J Med Invest. 61巻(1-2)号) pp.79-83.	2014. 2
	研究発表等 (共同)	「運動の基礎的能力の改善を目的としたコーディネーショントレーニングの授業への導入のための検討」(細野裕希、漆原良、日本体育学会第64回大会、於：立命館大学)	2013. 8
	研究発表等 (共同)	「平衡トレーニングがサッカー選手に与える影響について」(細野裕希、漆原良、日本フットボール学会 (JSSF) 11th Congress、於：東海大学)	2013.12
江口 友朗	研究発表等 (共同)	「タイ王国における家計間での私的な相互扶助の実態：バンコク都における独自個票調査に基づいて」(Sinudom ARISSARA、国際開発学会第14回春季大会、於：栃木県・宇都宮大学)	2013. 6
	研究発表等 (共同)	「タイ王国における所得再分配構造のミクロ的・制度的基礎：現地個票調査に基づいて」(Sinudom ARISSARA、経済理論学会第61回全国大会、於：神奈川県・専修大学生田キャンパス)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「制度論的ミクロ・マクロ・ループ論の方法論的・理論的な課題：共時的に異質で多面的なアクターを分析するために」(進化経済学会第18回全国大会、於：石川県・金沢大学)	2014. 3
遠藤 保子	著書(共編著)	『無形文化財の伝承・記録・教育-アフリカの舞踊を事例として-』(相原進・高橋京子、文理閣) 全227頁	2014. 3
	論文(共著)	「ガーナの舞踊と舞踊のデジタル記録・解析」(相原進・八村広三郎ほか、『立命館産業社会論集』49巻1号) 23-44頁	2013. 6
	研究ノート (共著)	「震災復興における表現文化とメディア―東日本大震災後の復興支援に関する福島県のコミュニティ FM における音楽の契機とミュージカル「葉っぱのフレディー」上演の事例について」(栗谷佳司・平石貴士、『立命館産業社会論集』49巻4号) 101-118頁	2014. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
遠藤 保子	研究発表等 (単独)	「ガーナの民族舞踊とガーナ国立舞踊」(日本体育学会第64回大会、於：立命館大学草津キャンパス)	2013. 8
	研究発表等 (共同)	「モーションキャプチャを用いたタンザニアの舞踊の解析と舞踊の変容」(相原進、日本スポーツ人類学会第15回学会大会、於：東京学芸大学)	2014. 3
	そ の 他 (パネリスト等)	「舞踊の記録、保存、デジタル記録」(2013 International Symposium of the Korean Society of Dance -Dance Scholarship on the Edge-, Saturday)	2013.11
大谷いづみ	著書(分担執筆)	『生命倫理と医療倫理 改訂3版』(伏木信次・檉則章・霜田求編、「安楽死と尊厳死」、金芳堂) 108-115頁	2014. 3
	論文(単著)	「理性的自殺」がとりこぼすもの—統一「死を掛け金に求められる承認」という隘路」(『現代思想』41巻7号、青土社) 198-209頁	2013. 5
	書評(単著)	「図書紹介：立岩真也・有馬斉編 生死の語り行い1—尊厳死法・抵抗・生命倫理学—」(『リハビリテーション』554号、鉄道身障者福祉協会) 33-34頁	2013. 6
	研究発表等 (単独)	「〈問い〉とともに障害を生きる—QOL概念の二重性」(第22回高度先進リハビリテーション医学研究会、於：慶應義塾大学北里記念図書館北里講堂)	2014. 2
大野 威	論文(単著)	「高度経済成長末期におけるアメリカ3大自動車メーカーの経営状況と労使関係」(『立命館産業社会論集』49巻3号) 1-12頁	2013.12
岡本 茂樹	著書(分担執筆)	『反省させると犯罪者になります』(新潮新書) 全220頁	2013. 5
	論文(単著)	「無期懲役受刑者に対するロールレタリングを用いた面接過程」(『心理臨床学研究』31巻1号、日本心理臨床学会) 95-106頁	2013. 4
	論文(単著)	「薬物依存の受刑者に対するグループワークとロールレタリングを用いた心理的支援」(『立命館産業社会論集』49巻1号) 45-56頁	2013. 6
	論文(単著)	「司法領域におけるゲシュタルト療法の実践：ロールレタリングの効果的活用」(『ゲシュタルト療法研究』3号、日本ゲシュタルト療法学会) 31-36頁	2013. 8
	論文(単著)	「被害者の視点を取り入れた教育」にロールレタリングを用いたプログラムの効果の研究」(『ゲシュタルト療法研究』3号、日本ゲシュタルト療法学会) 47-57頁	2013. 8
	研究発表等 (単独)	「「加害者」の視点を取り入れたプログラムの研究」(日本司法福祉学会第14回大会、於：日本福祉大学)	2013. 8
	研究発表等 (単独)	「問題行動を起こした人に対する支援技法としてのロールレタリング—犯罪臨床における反省のあり方—」(日本ロールレタリング学会第14回大会、於：園田学園女子大学)	2013. 8
岡本 尚子	著書(分担執筆)	『数学教育実践入門』(黒田恭史、共立出版) 87-138頁	2014. 3
	論文(共著)	「教育学における生理学指標の可能性」(前迫孝憲・江田英雄、『佛敎大学総合研究所紀要』21巻) 255-265頁	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「小学校高学年における関数の認識と中学校への接続」(中久保高志、黒田恭史、数学教育学会夏季研究会(関西エリア)、於：京都教育大学)	2013. 6
	研究発表等 (共同)	「生理学的データを用いた数学教育の可能性」(黒田恭史、日本教育学会第72回大会、於：一橋大学)	2013. 8
	研究発表等 (共同)	「方向判断における視線移動の特性」(黒田恭史、教育システム情報学会第38回全国大会、於：金沢大学)	2013. 9
	研究発表等 (共同)	「学力調査がもたらす算数・数学教育への影響」(黒田恭史、日本教育実践学会第16回研究会、於：岡山大学)	2013.11
	研究発表等 (共同)	「算数課題遂行時における脳活動と視線移動の同時計測について」(黒田恭史、日本教育実践学会第16回研究会、於：岡山大学)	2013.11

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
岡本 尚子	研究発表等 (共同)	“Physiological measurement in educational research” (Yasufumi Kuroda, European Conference on Social and Behavioral Science, 於: Sapienza University in Rome, Italy)	2014. 2
	研究発表等 (共同)	「数列課題遂行時における生理学的複数指標の同時計測」(黒田恭史, 数学教育学会春季年会, 於: 学習院大学)	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「見取り図から立面図への変換過程時の視線移動の特徴」(黒田恭史, 中島悠, 数学教育学会春季年会, 於: 学習院大学)	2014. 3
小川 栄二	著書(共著)	『あなたの声が聞きたくて—ホームヘルパーによる実践事例と理論—』(小松啓・森永伊紀・ホームヘルパー事例研究会, 萌文社) 全173頁	2013.11
	論文(単著)	「介護保険報酬改定, 介護をめぐる労働環境の問題」(『診療研究』, 東京保険医協会) 5-15頁	2013. 6
	論文(単著)	「介護保険見直しにおける『要支援者』の『新しい総合事業』への移行について」(『ゆたかなくらし』 381号, 全国老人福祉問題研究会) 32-37頁	2014. 2
小澤 亘	研究発表等 (単独)	“Action Research to build a Transnational Volunteer Support Network for Foreign Students' Education: Possibility of Digital Book System as a Tool for Volunteer Linkage” (ISTR (International society for third sector research) The 8th Asia-Pacific Regional Conference in Seoul)	2013. 8
	その他(共著)	高齢者の見守りと民生委員の活動研究会編『民生児童委員調査報告書—2012年京都市・宇治市・八幡市悉皆調査』(高齢者の見守りと民生委員の活動研究会) 全138頁	2013.10
角田 将士	その他(単著)	「社会科フォーラム「領土の授業」観戦記: 小学校だからこそどんな授業にしたらいのか」(『社会科教育』 650号, 明治図書) 105頁	2013. 6
	その他(単著)	「抽象度の高いテーマ=どんなネタで勝負するかクイズ—国民国家って—こんなネタで勝負クイズ」(『社会科教育』 652号, 明治図書) 45頁	2013. 8
	その他(単著)	「魅力ある授業づくりに向けて」(大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会編『研究集録』 50号) 38頁	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「日本と韓国における市民性に関する比較教育史研究」(全国社会科教育学会第62回全国研究大会, 於: 山口大学)	2013.11
金山 勉	調 査 報 告 (共著)	「アメリカ2大学における地域連携学修実践および体験型メディア教育実践 St.Olaf College, Ohio University 調査」報告, (坂田謙司, 『立命館産業社会論集』 49巻2号) 137-151頁	2013. 9
	その他(単著)	「TVのネット伝送サービスで攻防」(『メディア展望』 617号, (新聞通信調査会) 18頁	2013. 5
	その他(単著)	「ソフトBの米携帯買収に横やり」(『同上』 618号, 同上) 22頁	2013. 6
	その他(単著)	「海外メディア事情: ソフトバンクとディッシュの攻防」(『月刊民放』 43巻6号) 40-41頁	2013. 6
	その他(単著)	「米公共TVが大規模合理化」(『メディア展望』 619号, 同上) 14頁	2013. 7
	その他(単著)	「ソフトバンクが米携帯第3位を買収」(『同上』 620号, 同上) 27頁	2013. 8
	その他(単著)	「米WP紙, アマゾンCEOに身売り」(『同上』 621号, 同上) 30頁	2013. 9
	その他(単著)	「米新聞界の構造的問題が浮き彫りに」(『同上』 622号, 同上) 34頁	2013.10
	その他(単著)	「海外メディア事情: CBSとTWCの交渉が決着」(『月刊民放』 43巻10号) 46-47頁	2013.10
	その他(単著)	「CATV視聴者はじっくり型」(『メディア展望』 623号, 同上) 28頁	2013.11

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
金山 勉	その他(単著)	「マルチch分野で米通信大手が猛追」(『同上』624号、同上) 34頁	2013.12
	その他(単著)	「米CATV業界再編の動き加速」(『同上』625号、同上) 27頁	2014.1
	その他(単著)	「NYTがUSAトゥデー抜き、2位に」(『同上』626号、同上) 37頁	2014.2
	その他(単著)	「海外メディア事情：デジタルジャーナリズムの変革」(『月刊民放』44巻2号) 36-37頁	2014.2
	その他(単著)	「米ケーブル業界首位が2位買収へ」(『メディア展望』627号、同上) 19頁	2014.3
	研究発表等 (パネリスト等)	「災害報道のレジリエンス—南海トラフ巨大地震に備える放送メディア—」 (内山光弘・佐々木智之ほか、日本マス・コミュニケーション学会2013年度春季研究発表会、於：松山大学)	2013.6
権 学俊	論文(単著)	「近代国民国家における「国民」形成と秩序化される身体」(『日本語文学』62巻、日本語文学会) 367-388頁	2013.8
	論文(単著)	「戦時体制下日本における国民体力の国家管理と厚生事業」(『日本文化研究』48巻、東アジア日本学会) 21-39頁	2013.10
	論文(単著)	「日本社会における異質な他者の受容と抵抗に関する一考察」(『日本語文学』64巻、日本語文学会) 366-389頁	2014.1
	論文(単著)	「近現代日本社会における天皇制とスポーツに関する一考察」(『日本研究』21巻、高麗大学日本研究センター) 5-29頁	2014.2
黒田 学	論文(共著)	「スペイン・カタルーニャ自治州における障害児教育・福祉に関する調査研究」(バユス・ユイス・小西豊ほか、『立命館産業社会論集』49巻2号) 23-44頁	2013.9
	論文(共著)	「ミラノ発 障害者のオーケストラ「アレグロモデラート」」(平沼博将・益田弥生、『福祉のひろば』165号、大阪福祉事業財団) 44-48頁	2013.12
小泉 秀昭	調査報告 (編著)	小泉秀昭編著『広告会社との取引に関する実態調査2012』(公益社団法人日本アドバタイザーズ協会) 全81頁	2013.10
	研究発表等 (単独)	「広告主と広告会社の取引に関する研究—広告主に対する実態調査からの課題と方向性—」(日本広告学会第44回全国大会、於：九州産業大学)	2013.10
斎藤 真緒	研究ノート (共著)	「介護と仕事の両立をめぐる課題—ワーク・ライフ・ケア・バランスの実現に向けた予備的考察」(津止正敏ほか、『立命館産業社会論集』49巻-4号) 119-137頁	2014.3
坂田 謙司	調査報告 (共著)	「アメリカ2大学における地域連携学修実践および体験型メディア教育実践 St.Olaf College, Ohio University 調査」報告、(金山勉、『立命館産業社会論集』49巻2号) 137-151頁	2013.9
坂本 利子	研究発表等 (共同)	「留学生と日本人学生の共修における教授法の確立に向けて」(末松和子・尾中夏美ほか、留学生教育学会(JAISE)第18回研究大会、於：北陸大学)	2013.8
	研究発表等 (共同)	“Strategy for promoting integration on campus: Networking for institutional commitment” (Horie Miki, The 9th University Administrators' Workshop (UAW), at Hong Kong University of Science and Technology 於：香港科技大学)	2014.1
崎山 治男	著書(分担執筆)	『社会理論と社会システム』(『日本社会と社会問題』, 中央法規) 211-225頁	2014.1
櫻井 純理	著書(共著)	『自治体セーフティネット』(福原宏幸・五石敬路ほか、公人社) 27-50頁	2014.2
	論文(単著)	「労働統合型社会的企業の活動が地域にもたらしているもの」(『地方自治京都フォーラム』120号、京都地方自治総合研究所) 2-7頁	2014.1

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
櫻井 純理	書評(単著)	「熊沢誠著『労働組合運動とはなにか—絆のある働き方をもとめて—』」(『日本労働社会学会年報』第24号、東信堂) 99-103頁	2013.12
	研究発表等 (共同)	“The Changing Labour Market under the Neo-Liberalism in Japan” (Takeshi Shinoda, Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies (2014 International Symposium at Chung-Ang University))	2014. 2
櫻谷真理子	調 査 報 告 (単著)	「児童養護施設退所者へのアフターケアに関する研究」(『立命館産業社会論集』49巻4号) 139-149頁	2014. 3
笹野恵理子	論文(単著)	「学校音楽カリキュラム経験の研究—学校音楽文化研究への視角—」(日本音楽教育学会編、『音楽教育学』43巻1号、日本音楽教育学会) 42-52頁	2013. 6
	論文(単著)	「学校音楽文化とジェンダー分化—子どもたちの学校音楽経験にみるジェンダー差異の様相—」(日本音楽教育学会編、『音楽教育実践ジャーナル』11巻1号、日本音楽教育学会) 80-90頁	2013. 8
	論文(単著)	「大学生の『語り』にみる学校音楽カリキュラム経験の意味構築過程—ナラティブ・アプローチによる『経験された』カリキュラムの実証的解明—」(関西楽理研究会編、『関西楽理研究』30巻) 242-253頁	2013.12
	その他(単著)	佐藤泰平・後藤丹「【ワークショップ】童話「かしはばやしの夜」を上演しよう！」(日本音楽表現学会編、『音楽表現学』11巻、日本音楽表現学会) 74-75頁	2013.11
	研究発表等 (共同)	ワークショップ:「童話「かしはばやしの夜」を上演しよう!」「かしはの木1」(日本音楽表現学会第11回(イートハーブ)大会、於:マリオス盛岡地域交流センター)	2013. 6
	研究発表等 (単独)	「学校音楽を『教える』ことと『学ぶ』ことの諸相(3)—中学生の学校音楽カリキュラム経験—」(日本音楽教育学会第44回大会、於:弘前大学)	2013.10
佐藤 春吉	論文(単著)	「M. ヴェーバーの現実科学と因果性論(上)—M. ヴェーバーの科学論の構図と理念型論—多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み—その2」(『立命館産業社会論集』49巻2号) 1-21頁	2013. 9
	論文(単著)	「M. ヴェーバーの現実科学と因果性論(中)—M. ヴェーバーの科学論の構図と理念型論—多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み—その2」(『立命館産業社会論集』49巻4号) 15-35頁	2014. 3
	翻訳(単訳)	マーガレット・S. アーチャー著「主観性存在論的位置: 構造とエイジェンシーをつなぐ失われた環」(『立命館大学人文科学研究所紀要』104巻) 149-177頁	2014. 3
鎮目 真人	著書(共編著)	『研究道—学術的探求の道案内—』(平岡公一・武川正吾ほか監修、須田木綿子・西野理子ほか編集、東信堂) 211-222頁	2013. 4
	著書(分担執筆)	『福祉社会学ハンドブック』(福祉社会学会編、中央法規) 6-9頁、196-197頁	2013. 7
	著書(共著)	『比較福祉国家—理論・計量・各国事例』(近藤正基、ミネルヴァ書房) 1-19頁、183-201頁	2013.12
	論文(単著)	「2004年年金改革における政策アイデア・フレーミングの役割」(『日本年金学会誌』32号) 150-159頁	2013. 4
	書評(単著)	「河合克義編著『福祉論研究の地平—論点と再構築』」(『総合社会福祉研究』42号、総合社会福祉研究所) 65-69頁	2013.10

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
鎮目 真人	研究発表等 (単独)	「移民に対する所得保障と不平等」(福祉社会学会第11回大会、於：立命館大学)	2013. 6
下條 正純	論文(共著)	「日本語教育に小説を用いるということ」(『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』(1巻2号)、九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会) NO.4	2014. 3
杉本通百則	論文(単著)	“Konstruktionsbedingte Beschränkungen beim Autorecycling in Japan” (Jürgen Keffler & Ekkehard Sachse (Hrsg.) Probleme der Globalisierung aus europäischer und japanischer Perspektive: Beiträge zur vergleichenden Wirtschaftsforschung. Hamburg: Verlag Dr. Kovač) pp.141-161.	2013.10
住家 正芳	論文(単著)	「ナショナリズムはなぜ宗教を必要とするのか：加藤玄智と梁啓超における社会進化論」(『宗教研究』376号、日本宗教学会) 1-25頁	2013. 6
高嶋 正晴	研究発表等 (単独)	「農山村地域の課題と可能性の観点から考える：フロンティア・デザイン～「先進プロジェクト研究」の成果を踏まえつつ～」(主催：立命館大学大学院社会学研究科および綾部里山交流大学、フロンティア・デザイン・フォーラム「クリエイティブ・ローカル」の時代を拓く、於：立命館東京キャンパス)	2013. 8
	そ の 他 (パネリスト)	「地域づくりコミュニティ・ビジネスフォーラム」(主催：NPO 法人 CS 神戸および NPO 法人シンフォニー、於：ハートフルかすが (兵庫県))	2013. 7
	その他(講師)	講演：「市民の手で 学び×コミュニティ＝まちづくり」(主催：朝来市、第3回 あさご・まちづくりカフェ、於：山東公民館 (兵庫県朝来市))	2013. 8
	その他(講師)	講演：「地域プロデューサーと地域づくり」(「第1回 丹波市・地域プロデューサー養成講座」、於：丹波市春日住民センター (兵庫県))	2013.11
	その他(講師)	講演：「生涯学習と地域づくり」(丹波市生涯学習基本計画審議会・研修会、於：丹波市柏原住民センター (兵庫県))	2013.12
	そ の 他 (選考・講評)	「第3回 丹波農業グランプリ」(主催：丹波農業グランプリ実行委員会、於：ハートフルかすが (兵庫県丹波市))	2014. 2
	その他(講師)	ワークショップ：「空き家を語ろう、どないしたらええん？」(講演：空家活用の事例紹介)(於：名田庄公民館 (福井県おおい町))	2014. 2
	そ の 他 (コメンテーター)	「地域づくりコミュニティ・ビジネス起業ビジネスプランフォーラム」(主催：NPO 法人 CS 神戸および NPO 法人シンフォニー、於：丹波の森公苑 (兵庫県丹波市))	2014. 2
竹内 謙彰	著書(単著)	「高機能自閉症スペクトラム障害者における自己の諸側面―発達支援への示唆」(望月昭・村本邦子ほか編著、『対人援助学の到達点』、晃洋書房) 94-107頁	2013. 7
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発 (4)―幼児期～小学校中学年期」(荒木穂積ほか、日本発達心理学会第25回大会、於：京都大学)	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の集団活動を援助する療育プログラム開発 (5)―小学校高学年期：集団を意識した「なりきる遊び」」(荒木穂積ほか、日本発達心理学会第25回大会、於：京都大学)	2014. 3
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム障害児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発 (6)―中学・高校生期：集団を意識したルール作り」(荒木穂積ほか、日本発達心理学会第25回大会、於：京都大学)	2014. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
竹濱 朝美	著書(単著)	「電力における消費者選択, 再生可能エネルギーによる電力グリーン化」(吉村純一・竹濱朝美編, 『流通動態と消費者の時代』8章所収, 白桃出版) 159-189頁	2013. 4
	論文(単著)	「ドイツにおける風力発電の給電データ開示制度と系統運用の現状」(『JWPA』(日本風力発電協会誌) http://jwpa.jp/2013_pdf/88-26tokushu.pdf (9号)) 58-68頁	2013. 8
	論文(共著)	「太陽光発電と風力発電にかかるドイツの給電データ開示制度: 50ヘルツ区域の需給運用の現状」(齊藤哲夫『太陽/風力エネルギー講演論文集 2013』[28-29 Nov.2013] (Year 2013巻)) 211-214頁	2013.11
	論文(単著)	「ドイツにおける大規模風力系統連系による柔軟な系統運用, 給電データに基づく分析」(第35回・風力エネルギー利用シンポジウム2013 (第35回巻)) 319-322頁	2013.11
	論文(共著)	「欧州に於ける風力発電出力予測の利用」(齊藤哲夫・小西雅子, 電気学会全国大会講演論文集 (H26年版, 分冊 6, 系統運用・解析, 系統機器・制御, 開閉機器・避雷器, 系統保護・制御装置 (H26年分冊 6 巻)) S18(17)-S18(20))	2014. 3
	研究発表等 (単身)	“Grid Integration Issues of Renewable Energy in Japan and Its Transparency of Grid Data” (18th REFORM Group Meeting Salzburg, http://www.polsoz.fu-berlin.de/polwiss/forschung/systeme/ffu/veranstaltungen/termine/downloads/13_salzburg/Takehama-Salzburg-2013.pdf http://www.polsoz.fu-berlin.de/polwiss/forschung/systeme/ffu/veranstaltungen/termine/13_salzburg.html) 於: Schloss Leopoldskron, Salzburg/Austria, 26th Aug-30th Aug 2013	2013. 8
	研究発表等 (単身)	「風力発電および太陽光発電の系統連系に向けた給電データ開示の役割」(日本消費経済学会, 第38回全国大会 (2013), 於: 中央学院大学)	2013.10
	研究発表等 (単身)	「ドイツ風力・太陽光発電の大量連系と給電・系統情報の開示」(第47回 CAPS 研究会, 於: 京都大学経済研究所・先端政策分析研究センター (CAPS), 京都市)	2013.12
玉置 えみ	研究発表等 (単身)	“Grid Integration of Wind and Photovoltaic Energy in 50Hertz Zone, Germany” (Experts’ Meeting, Revision 2014 (Japan Renewable Energy Foundation) 於: イイノホール, 東京)	2014. 2
	論文(単著)	“The Gendered Effects of Marriage on Health: Evidence from Japan” (『パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』74巻, 東京大学社会科学研究所) 1-22頁	2014. 3
	研究発表等 (共同)	“Social Change, Social Networks, and Family & Fertility Change in Japan.” (Ronald Rindfuss, Emi Tamaki, Martin Piotrowski, Minja Choe, Noriko Tsuya, and Larry Bumpass, International Union for the Scientific Study of Population (IUSSP), Busan, South Korea)	2013. 8
	研究発表等 (共同)	「不妊の生物人口学的解明: パイロット調査の設計と実施」(玉置えみ, 小西祥子, 立命館大学人間科学研究年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会, 於: 立命館大学)	2014. 1
	研究発表等 (単独)	“Transnational Ties and Adaptation of Asian Immigrants in the United States.” (International Symposium for Professional Scholars at Chung-Ang University, Seoul, South Korea)	2014. 2

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	著書(共著)	『研究道：学的探求の道案内』（平岡公一・武川正吾ほか監修, 「量的・質的研究の知のマッピング」, 東信堂）134-150頁	2013. 4
	著書(分担執筆)	『比較福祉国家：理論・計量・各国事例』（鎮目真人・近藤正基編著「マルチレベル分析：態度と価値観における国家と個人の分析」, ミネルヴァ書房）118-142頁	2013.12
	論文(単著)	“The Transitional Phase of Mate Selection in East Asian Countries” (International Sociology 28巻3号) 257-276頁	2013. 5
	論文(単著)	「親密性と夫婦関係のゆくえ」(『社会学評論』64巻4号, 日本社会学会) 572-588頁	2014. 3
	研究発表等 (共同, 国外)	““No One Left Behind”? Youth Employment in Japan” (Eric FONG, The 2013 Annual Meeting of Population Association of America, 於: New Orleans)	2013. 4
	研究発表等 (単独)	「国際労働のなかの結婚と女性労働」(明治大学ジェンダセンター, 於: 明治大学駿河台キャンパス)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「未婚化についての理論および実証」(経団連21世紀政策研究所・少子化対策研究会, 於: 経団連会館)	2013.10
津止 正敏	著書(単著)	『ケアメンを生きる—男性介護者100万人へのエール—』(クリエイツかもがわ) 全152頁	2013. 5
	著書(単著)	『しあわせの社会運動—人がささえあうということ—』(ひゅうまん京都編, ウインかもがわ) 全158頁	2013. 6
	論文(単著)	「ケアメン百万人時代の実態と課題」(『中央公論』, 中央公論新社) 138-145頁	2013.10
仲井 邦佳	論文(単著)	「大学の単位の実質化と15週問題—大学の慣行的側面と国際的現状の観点から—」(『大学創造』28号, 高等教育研究会) 64-77頁	2013. 9
	その他(単著)	「スペイン語講座 (13) 現在分詞について」(『Acueducto』13号, Adelante) 29頁	2013. 5
	その他(単著)	「スペイン語講座 (14) 不定詞について」(『同上』14号, Adelante) 31頁	2013. 8
	その他(単著)	「スペイン語講座 (15) 不定語と否定語の用法について」(『同上』15号, Adelante) 31頁	2013.11
	その他(単著)	「スペイン語講座 (16) 現在分詞について」(『同上』16号, Adelante) 31頁	2014. 2
	研究発表等 (単独)	「大学の単位の実質化と15週問題—大学の慣行的側面と国際的現状の観点から—」(高等教育研究会第108回定例研究会, 於: 京都私学会館)	2013. 5
中井 美樹	論文(単著)	German-Japanese Interchange of Data Analysis Results, “Socio-economic and Gender Differences in Voluntary Participation in Japan” (Wolfgang Gaul, Andreas Geyer-Schulz, Yasumasu Baba, and Akinori Okada (Eds.), Nakai, Miki, Springer, Heidelberg) pp.225-234.	2013.11
	研究発表等 (単独)	“Patterns of Cultural Practices and Characteristics of the Cultural Omnivore” (Conference of the International Federation of Classification Societies, 於: University of Tilburg, The Netherlands)	2013. 7
中西 純司	著書(共著)	『健康・スポーツ科学のための調査研究法』(杏林書院) 152-187頁	2014. 2
	論文(共著)	「地域スポーツにおける『新しい公共』とソーシャル・ガバナンスの展望: 『連携』と『牽制』のパラドックスを超えて」(山本悦史, 『体育・スポーツ経営学研究』27巻1号, 日本体育・スポーツ経営学会) 63-77頁	2014. 2

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
中西 純司	論文(単著)	「スポーツ経営における『顧客苦情マネジメント戦略』に関する実証的研究—特に、民間スポーツ・フィットネスクラブの経営に焦点をあてて—」(『立命館産業社会論集』49巻4号) 37-56頁	2014. 3
	研究発表等 (単独)	「『スポーツサービス・マネジメント』理論の構築における課題と展望(Ⅱ)—民間スポーツ・フィットネスクラブ経営における『顧客苦情マネジメント』戦略モデルの構築—」(日本体育学会第64回大会、於：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス)	2013. 8
	研究発表等 (単独)	「日本体育協会が目指すクラブの姿(イメージ)」(日本体育・スポーツ経営学会第47回研究集会、於：筑波大学東京キャンパス文京校舎)	2014. 1
	そ の 他 (司会・パネリスト)	「スポーツ推進委員で築く地域の活性化～がばいよか！スポーツの新時代に向かって～」(第56回九州地区スポーツ推進委員研究大会〔公益社団法人全国スポーツ推進委員連合〕、於：佐賀県総合体育館)	2014. 2
	そ の 他 (司会・パネリスト)	「熱意と能力のあるスポーツ推進委員の確保と研修機会の充実」(生涯スポーツ・体力づくり全国会議2014〔文部科学省〕、於：山口県湯田温泉ホテルニュータナカ)	2014. 2
中西 典子	論文(単著)	過疎高齢地域の産業と福祉をめぐる小規模自治体と事業者との連携(上)—京都府与謝郡与謝野町における調査研究をもとに—(『立命館産業社会論集』49巻1号) 69-82頁	2013. 6
	論文(単著)	過疎高齢地域の産業と福祉をめぐる小規模自治体と事業者との連携(下)—京都府与謝郡与謝野町における調査研究をもとに—(『立命館産業社会論集』49巻2号) 45-65頁	2013. 9
	研究発表等 (単独)	「英国の政権交代における官民パートナーシップおよび地域再生政策の動向」(日本都市学会第60回大会、於：サンポート高松)	2013.10
中西 仁	論文(単著)	「永田時雄・「西陣織」再考」(『立命館産業社会論集』49巻3号) 33-48頁	2013.12
	論文(単著)	「地域に学ぶ小学校教員養成課程の学生たち—京北子どもプロジェクト—」(『立命館教職教育研究』1号) 43-51頁	2014. 3
	研究発表等 (単独)	「江戸時代を二つに分けたら」(近現代史教材・授業づくり研究会臨時全国大会、於：大阪市高津ガーデン)	2014. 3
仲間 裕子	著書(共著)	『ローマ—外国人芸術家たちの都(西洋近代の都市と芸術1)』(佐藤直樹ほか、竹林舎) 99-119頁	2013.10
	著書(共編著)	『自然の知覚—風景の構築。グローバル・パースペクティブ(Perception of Nature - Construction of Landscape. Global Perspectives)』(仲間裕子・ハンス・ディッケル編、日・英、三元社) 1-311頁	2014. 3
	論文(単著)	「カスパー・ダーヴィット・フリードリヒ—調和と乖離の自然観」(『シェリング年報』21号、日本シェリング協会) pp.42-54	2013.11
	研 究 発 表 (単独)	“Aesthetics and Landscape: Crystallization of landscape images” (The 19th International Congress of Aesthetics, 於：Jagiellonian University, Krakow)	2013. 7
	研 究 発 表 (単独)	「風景の結晶化、標準化」(「国際カンファレンス：風景のアヴァンギャルド、風景のポストモダン」於：立命館大学)	2013.10
	研 究 発 表 (単独)	“The Matsukata Collection: Mutual cultural interest in art between Europe and Japan” (Riflessi del collezionismo, tra bilanci critici e nuovi contributi, 於：Palazzo Albani, Urbino)	2013.10

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
仲間 裕子	研究発表 (単独)	“Ju Ming’s <i>Living World</i> and its anthropological images” (“Modeling Ju Ming” — Ju Ming International Symposium, 於: Hong Kong Museum of Art)	2014. 3
	講 演	“The view on nature in Romanticism and Japanese aesthetics” (於: Erasmus University, Rotterdam)	2014. 3
中村 正	論文(分担執筆)	「社会と臨床について記述する『知のかたち』—社会臨床の視界・社会問題の解決・脱心理主義化—」(望月昭・村本邦子・土田宣明他編『対人援助学の到達点』晃洋書房) 3-20頁	2013. 7
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (1) 暗黙理論」(『対人援助学マガジン』, 対人援助学会, Vol.4 No.1) 17-23頁	2013. 6
	その他(分担執筆)	「ドメスティック・バイオレンス加害者対応」(日本家族研究・家族療学会編『家族療法テキストブック』金剛出版) 210頁	2013. 7
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (2) ガスライティング」(『対人援助学マガジン』, 対人援助学会, Vol.4 No.2) 18-26頁	2013. 9
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (3) 動機の語彙」(『対人援助学マガジン』, 対人援助学会, Vol.4 No.3) 19-27頁	2013.12
	その他(単著)	「臨床社会学の方法 (4) ジェンダー臨床」(『対人援助学マガジン』, 対人援助学会, Vol.4 No.4) 19-28頁	2014. 3
	そ の 他 (単著・書評)	イー・リー, ジョン・シーボルト, エイドリアナ・ウーケン著／玉真慎子・住谷祐子訳『DV 加害者が変わる—解決志向グループセラピー実践マニュアル』(『精神療法』第39巻第2号)	2013. 4
	研究発表等 (単独)	「法と人間科学からみた加害者臨床の展望」(「法と心理学会第14回大会」九州大学)	2013.10
	研究発表等 (共同)	「傷ついた男性性からの回復 (その2)」(第5回対人援助学会, 立命館大学)	2013.11
	研究発表等 (共同)	「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために (その2)」(第5回対人援助学会, 立命館大学)	2013.11
永橋 爲介	論文(共著)	「空き缶回収野宿者への聞き取り調査から検証する京都市『廃棄物の減量及び適性処理等に関する条例』改正プロセスにおける野宿者像とその向き合い方 (下)」(丸山里美・木村理恵ほか, 『立命館産業社会論集』49巻1号) 83-105頁	2013. 8
	翻訳(単訳)	クレア・クーパー・マーカス著「環境的自叙伝」(『立命館産業社会論集』49巻1号) 145-153頁	2013. 8
	論文(単著)	「『環境的自叙伝』が幼稚園関係者と保護者にもたらした効用に関する考察 (上)」(『立命館産業社会論集』49巻2号) 67-79頁	2013.10
	論文(単著)	「『環境的自叙伝』が幼稚園関係者と保護者にもたらした効用に関する考察 (下)」(『立命館産業社会論集』49巻3号) 49-70頁	2013.12
根津 朝彦	論文(単著)	「『世界』編集部と戦後知識人—知的共同体の生成をめぐる—」(『メディア史研究』34号, メディア史研究会) 40-63頁	2013. 9
	論文(単著)	「戸坂潤—ジャーナリズム論の先駆者」(安田常雄編, 『戦争と向き合って 講座 東アジアの知識人 第4巻』, 有志舎) 122-140頁	2014. 3
	論文(単著)	「桑原武夫の思想形成—幼年期から京都一中時代」(『京都大学文学部研究紀要』12号) 1-18頁	2014. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
根津 朝彦	書評(単著)	書評:「竹内洋『メディアと知識人』」(『同時代史研究』6号, 同時代史研究会) 58-63頁	2013.12
	その他(単独)	「『戦後『中央公論』と『風流夢譚』事件』の出版に際して」『評論』第191号(日本経済評論社)	2013. 4
	その他(単独)	講演:「ジャーナリズムと言論の自由」(『湘南国際村フェスティバル2013サイエンスカフェ:「科学を伝える」』, 於:総合研究大学院大学)	2013. 5
	その他(単独)	「同時代史学会2012年度年次大会参加記」(『同時代史学会 News Letter』第22号)	2013. 5
	その他(単独)	書評:「福間良明著『二・二六事件の幻影』」『京都新聞』2013年8月11日付	2013. 8
	その他(単独)	「竹内さんを通り抜けた自由の断片」(『闊達な愚者 竹内成明先生追想文集』)	2014. 3
盧 載玉	著書(共著)	『ハングルのとびら』(梁貞模, 朝日出版社) 全136頁	2014. 1
野田 正人	著書(共著)	『対人援助学の到達点』(望月昭・村本邦子ほか編, 「児童虐待についての学校の対応一特に発見と通告をめぐる一」, 晃洋書房) 168-179頁	2013. 7
	著書(共著)	『出会い直しの教育』(春日井敏之・近江兄弟社高等学校単位制課程編, 「不登校とSSW・SCの取り組み」, ミネルヴァ書房) 217-223頁	2013. 9
	著書(編著)	『施設における子どもの非行臨床 児童自立支援事業概論』(相澤仁監修, 野田正人編集, 梅山佐和ほか著, 明石書店) 全256頁	2014. 1
	研究発表等 (単独)	「これからの少年センターのあり方」(大津少年センター 50周年記念講演, 於:大津) 同センター機関誌『補導—みちしるべ』40~45頁に要旨掲載	2013. 4
	研究発表等 (単独)	「障がい者審査会」滋賀県からの報告(日本司法福祉学会第14回全国大会シンポジウム, 於:名古屋市「ウイंक愛知」)	2013. 8
	研究発表会 (その他(パネリスト等))	「いじめ問題と生徒指導上の実践的課題」(日本生活指導学会第31回研究大会, 於:京都市堀川高校)	2013. 9
	研究発表等 (単独)	「児童自立支援施設の今日的課題—社会的養護の担い手として—」(日本児童青年精神医学会総会, 於:札幌市)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「いじめ防止対策推進法について」(大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカー連絡会, 於:大阪府庁)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「発達障害だと思うのだけど—包括的アセスメントによる子ども理解—」(故郷復興を目指す先生を元気にする集い in 仙台, 於:仙台市教育センター)	2014. 2
原尻 英樹	論文(単著)	「薩摩塔からみる海域内の交流:蓬萊と常世の観点から」(『中国・寧波産石材の拡散:異文化?の記憶—薩摩塔・碓石・宋風狛犬と東シナ海世界—』, 1号, 石造物研究会) 29-32頁	2014. 3
東 自由里	研究発表等 (単独)	Renewing Hiroshima Memory, Again: Bridging the Memory Gap between the Local and National Government, <i>International Conference on Memory, Conflict and Space</i> , Archbishop Desmond Tutu Centre for War and Peace Studies, 開催場所: Liverpool Hope University, U.K.	2013. 7
樋口 耕一	著書(単著)	『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』(ナカニシヤ出版) 全250頁	2014. 1
	研究発表等 (単独)	「応用編2 計量テキスト分析」(ICPSR 国内利用協議会・統計セミナー, 於:立命館大学)	2013. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
樋口 耕一	研究発表等 (単独)	「自由回答項目によるマイクロインタビューと通常項目による線形モデルとの連携—質問紙調査の分析事例から—」(日本行動計量学会第41回大会、於：東邦大学)	2013. 9
	研究発表等 (単独)	「テキストマイニングの基礎—文書データの統計解析—」(日本心理学会第77回大会チュートリアルワークショップ、於：北海道大学)	2013. 9
日暮 雅夫	研究発表等 (単独)	「フランクフルト学派における「市民社会」の問題—ハーバーマスとホネット—」(ヘーゲル学会第17回研究大会(シンポジウム「現代の危機に 대응するヘーゲル—その『法哲学』的処方箋—」、於：宇都宮大学)	2013. 6
日高 勝之	論文(単著)	「ラディカル・デモクラシー理論のメディア学への応用—ラクラウとムフの言説理論とメディア・言説空間の競合的複数性—」(『立命館産業社会論集』49巻3号) 13-32頁	2013.12
平山真奈美	論文(共著)	“Transition to a Two-Type Accent System in Tokyo Japanese? The Behavior of Surnames” (Timothy J. Vance, Mikio Giriko, (Japanese/Korean Linguistics) 20巻) pp.183-196.	2013. 7
	研究発表等 (単独)	“Testing the visibility of morphology in postlexical phonology: Evidence from vowel devoicing in Japanese” (Phonology Group meeting, Department of Linguistics, University of Toronto)	2013. 9
	研究発表等 (単独)	“A preliminary study on morphological effects in high vowel devoicing in Japanese” (The Third International Conference on Phonetics and Phonology, 於：国立国語研究所)	2013.12
福間 良明	著書(共編著)	野上元・蘭信三・石原俊編『戦争社会学の構想』(勉誠出版) 173-196頁	2013. 6
	著書(分担執筆)	難波功士編『基地文化』(新曜社) 159-190頁	2014. 3
	論文(単著)	「[忘却]という「継承」の消失—祝祭・遺構・モニュメント」(『立命館言語文化研究』25巻2号) 67-79頁	2014. 3
	論文(単著)	「人生雑誌に映る戦後」(『世界思想』41号、世界思想社) 18-22頁	2014. 3
イアン・ホザック	書評(単著)	“International education policy in Japan in an age of globalisation and risk” (<i>British Journal of Educational Studies</i> 61巻3号) pp.366-369	2013. 8
	研究発表等 (単独)	“‘More than just language’: How Japanese English teachers are contributing to citizenship education in Japan’s high schools” (9th citizED International Conference)	2013. 7
増田 幸子	著書(共著)	『最新 Study Guide メディア・リテラシー [入門編]』(鈴木みどり編、リベルタ出版) 86-92頁	2013. 4
松田 亮三	論文(共著)	“Changing roles of social health insures in delivering public health services” (Matsuda, R. and Nakahara, T., Articles from the 13th World Congress on Public Health (April, Addis Ababa, Ethiopia) 283巻286号) pp.23-27.	2013. 5
	論文(共著)	“Cultural differences in clinical leadership: a qualitative study comparing the attitudes of general dental practitioners from Greater Manchester and Tokyo” (P. Brocklehurst1, M. Nomura, T. Ozaki, J. Ferguson & R. Matsuda, (British Dental Journal) 215巻 E19号) pp.1-5 (doi:10.1038/sj.bdj.2013.1096).	2013.11

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
松田 亮三	論文(単著)	「健康政策の新たな展開—状況、目標、実施—」(『東海病院管理学研究会年報』平成24年度号.) 35-38頁	2013.11
	論文(共著)	“Learning from variations in institutions and politics: the case of social health insurance in France and Japan” (Ryozo MATSUDA and Monika STEFFEN, (Sciences Po Grenoble working paper) 14号) pp.1-28.	2014. 2
	報告書(分担執筆)	“International Profiles of Health Care Systems, 2013” (S. Thomson, R. Osborn, D. Squires, and M. Jun eds., The Commonwealth Fund) pp.76-83.	2013.11
	その他(単著)	「政策・実践上の重要概念としての普遍主義的給付」(『いのちとくらし研究所報』44号.) 1頁	2013. 9
	その他(共著)	「イングランド公衆衛生行政官・研究者の保健所視察および日英公衆衛生機構比較会議に参加して」(山田全啓・土井渉・中原俊隆との共著, 『公衆衛生情報』43巻11号) 6-8頁	2014. 2
	その他(単著)	「研究所の発信機能—オープン化のさらなる検討を」(『いのちとくらし研究所報』46号) 65頁	2014. 3
	その他(単著)	「新しい編集規程・論文審査(査読)規程について」(『立命館人間科学研究』29号) 1-2頁	2014. 2
	その他(単著)	「グローバリゼーションと普遍主義的医療」(『大阪保険医雑誌』563号) 6-9頁	2013. 8
	研究発表等(単独)	「健康の公平と社会医学の役割」(第54回日本社会医学会総会・シンポジウム「我が国の健康課題と社会医学の役割」, 於: 首都大学東京)	2013. 7
	研究発表等(単独)	「医療の人口の健康への寄与—二つの接近法の概観」(第54回日本社会医学会総会, 於: 首都大学東京)	2013. 7
	研究発表等(共同)	“Learning from variations in institutions and politics : the case of social health insurance in France and Japan” (Matsuda, R. and Steffen, M., (“Recent change in social health insurance” panel (Claus Wend), The 1st International Conference of Public Policy) 26-28 June 2013, 於: Science Po Grenoble, Grenoble)	2013. 7
	研究発表等(単独)	「グローバル化—医療政策の新しい課題」(日本医療経済学会・第37回学術研究大会, 於: 京都私学会館)	2013. 9
	研究発表等(単独)	“Policies on Diabetes and Public Health System of Japan: a situational analysis” (First UK-Japan Conference on Public Health System, 於: Ritsumeikan University)	2013.10
丸山 里美	著書(単著)	『女性ホームレスとして生きる—貧困と排除の社会学』(世界思想社) 全304頁	2013. 4
	著書(分担執筆)	『婦人保護施設と売春・貧困・DV 問題—女性支援の変遷と新たな展開』(宮本節子・須藤八千代編, 「貧困の広がり」と婦人保護施設の役割—増加する女性ホームレスの入所とその背景」, 明石書店) 253-286頁	2013. 7
	著書(分担執筆)	『無印都市の社会学』(近森高明・工藤保則編, 「ストリート・パフォーマンス—ガラスケースのなかの演奏」, 法律文化社) 188-189頁	2013. 8
	論文(共著)	「空き缶回収野宿者への聞き取り調査から検証する京都市「廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」改正プロセスにおける野宿者像とその向き合い方(下)」(永橋為介・木村理恵ほか, 『立命館産業社会論集』49巻1号) 83-105頁	2013. 6

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
丸山 里美	論文(単著)	「女性ホームレスの声に耳を傾け、社会的背景を考察する」(『女性情報』2013年6月号、バド・ウィメンズ・オフィス) 20-21頁	2013.6
	書評(単著)	「書評『自立と支援の社会学—阪神大震災とボランティア』」(『ソシオロジ』58巻1号、社会学研究会) 128-133頁	2013.6
湊 邦生	著書(分担執筆)	「モンゴル」(アジア経済研究所編『アジア動向年報2013』) 73-98頁	2013.5
	論文(単著)	「モンゴル国から見た将来のアジア—Asian Barometer Surveyに見る人々の予測の分析—」(『日本とモンゴル』48巻1号、日本モンゴル協会) 2-14頁	2013.9
	研究発表等 (単独)	「モンゴル国における中国の影響認知の計量分析」(日本モンゴル学会2013年度春季大会、於：大正大学)	2013.5
	研究発表等 (単独)	「モンゴル国におけるナショナル・アイデンティティの計量的検討—アジア・パロメータによる複数時点の調査データの予備的分析から—」(日本社会学会第86回年次大会報告、於：慶応大学)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「モンゴル国における排外主義の現状と要因：国際調査データからの検討」(多文化関係学会第12回年次大会、於：立教大学・新座キャンパス)	2013.10
	研究発表等 (単独)	「モンゴル国におけるナショナル・アイデンティティの計測に関する諸課題」(第57回数理社会学会大会(JAMS57)、於：山形大学)	2014.3
	研究発表等 (単独)	“Cross-cultural Tolerance and Intolerance in Mongolia: An Exploration Based on Analyses of Survey Data” (The 2nd International Research Conference “New Trends in Mongol Studies II”, at: National University of Mongolia, Ulaanbaatar, Mongolia)	2014.3
峰島 厚	著書(共著)	『障害者・高齢者総合福祉法』(瀧澤仁唱・渡辺治ほか、(障害者生活支援システム研究会編)、かもがわ出版) 35-53頁	2013.4
	著書(共編著)	『障害福祉現場で働くためのメンタルヘルスガイドブック』(大阪障害者センター福祉現場のメンタルヘルス検討会(代表峰島厚)、深谷弘和ほか編、かもがわ出版) 3、7-20、65-75頁	2013.10
	著書(共編著)	『育ちあう・育てあう職場づくりへの提言—障害福祉現場で働く職員のメンタルヘルスに関する職務調査から—』(大阪障害者センター福祉現場のメンタルヘルス検討会(代表峰島厚)、北垣智基ほか編、NPO 法人大阪障害者センター) 1-6、21-32、105-113頁	2014.2
	論文(共著)	「地域の就労支援」(岡本裕子、『労働法律旬報』1794号、旬報社) 22-28頁	2013.6
	論文(共著)	「仲間のねがいを大切にしたい「労働」を考える」(白石恵理子、『みんなのねがい』564号、全国障害者問題研究会出版部) 22-25頁	2013.6
	その他(単著)	「プロってなんだろう。職員として大切にしたいこと—めざすべき職員像をイメージできるように—」(『TOMO』403号、きょうざれん) 11頁	2013.10
	研究発表等 (共同)	「障がいのある青年の自立像を考える—働きながら余暇を楽しむダウン症青年の事例から—」(寺門宏倫・児玉真人・春原志保・黒岩直人、日本特殊教育学会第51回大会、於：明星大学)	2013.8
森田 真樹	論文(単著)	「今後の現場体験活動の方向性について考える」(全国私立大学教職課程研究連絡協議会編、『現場体験活動型教員養成の実態と課題 第2報』) 43-51頁	2013.5
	論文(単著)	「国際理解教育と社会科教育のインターフェース—歴史教育の役割を中心に—」(『立命館教職教育研究』創刊号、立命館大学教職教育推進機構) 33-42頁	2014.3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
森田 真樹	その他(単著)	「オリンピックのメダル一位は、アメリカか、グレナダか？」(『社会科教育』12月号、明治図書) 104頁	2014. 2
	その他(単著)	「開放制ならではの特色を活かして魅力と力のある教員を育てる」(『教職課程』2月号、共同出版) 100頁	2014. 3
	研究発表等 (単独)	「教員養成教育に関する大学の実践報告—立命館大学の場合—」(協同出版セミナー in 大阪、(教員養成教育の文科省と県教委の方針・施策及び大学の実践報告)、於：キャンパスイノベーションセンター大阪)	2013.11
	そ の 他 (パネリスト等)	「長期間の学校インターンシップが大学院生に何をもらたすのか」(全国私立大学教職課程研究連絡協議会、第33回研究大会、於：愛知大学)	2013. 5
	そ の 他 (パネリスト等)	「アジアにおける社会的課題の共有と社会科授業開発の可能性」(中山京子ほか、日本社会科教育学会、課題研究、於：山形大学)	2013.10
門田幸太郎	論文(単著)	「 χ^2 分布理解のための Excel によるシミュレーション— χ^2 値の定義と分布図との関連性について—」(『立命館産業社会論集』49巻4号) 1-14頁	2014. 3
山下 秋二	著書(共編著)	『健康・スポーツ科学のための調査研究法』(佐藤進共編著、杏林書院) 全214頁	2014. 1
	論文(共著)	“Service quality and user satisfaction in sports facilities for persons with disabilities in Japan” (Chihiro KANAYAMA・Masahiro YAMASAKI, Spor Bilimleri Dergisi (24巻2号)) pp.172-177.	2013. 6
	論文(共著)	「地域スポーツのキーアクター—三重県体操界へのスポーツ企業の参入を事例として—」(土肥紗綾、『体育経営管理論集』5巻、日本体育学会体育経営管理領域) 1-11頁	2013. 9
	論文(共著)	「Jリーグのイノベーション・タイプ—Abernathy = Clarkのイノベーション・マップによる分析—」(山本悦史、『体育経営管理論集』5巻、日本体育学会体育経営管理領域) 13-24頁	2013. 9
山下 高行	その他(単著)	「塩花の木々バスに乗る—日韓労働組合運動の共通課題」(国際ハン民族財団・立命館大学コリア研究センター・建国大学校統一文学研究団『日韓の理解・責任・未来のための提言集会』報告書) 76-85頁(日本語)、86-95頁(韓国語)	2014. 1
	そ の 他 (パネリスト等)	「塩花の木々バスに乗る—日韓労働組合運動の共通課題」(国際ハン民族財団・立命館大学コリア研究センター・建国大学校統一文学研究団共催：日韓の理解・責任・未来のための提言集会、於：立命館大学)	2014. 1
山本 耕平	著書(単著)	『障害者福祉現場で働くためのメンタルヘルスハンドブック』(峰島厚・深谷弘和ほか、かもがわ出版) 37-55頁	2013.10
	論文(単著)	「ソーシャルワークと協同関係性—語ら／れない当事者に学びつつ—」(『トラウマティック・ストレス』11巻1号、トラウマティック・ストレス学会) 35-42頁	2013. 6
	論文(共著)	「ひきこもる若者を対象とするピアアウトリーチ支援者養成に関する研究」(『第42回(平成23年度～平成25年度)三菱財団社会福祉事業・研究助成研究成果報告書』) 1-236頁	2013. 9
	論文(共著)	「五島列島の若者を取り巻く生きづらさと地域—社会参加が困難な状態にある若者が参加できる地域づくり実践へ向けて—」(岡部茜・青木秀光・深谷弘和、『立命館人間科学研究』29号) 111-122頁	2014. 2

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
吉田 誠	論文(単著)	「日産における臨時工の登場と労使関係：1949年の人員整理以前を中心に」 （『立命館産業社会論集』49巻1号）57-67頁	2013. 6
	論文(単著)	「経営労務の動向」（法政大学大原社会問題研究所編『2013年版 日本労働年鑑』83号）157-166頁	2013. 6